

# 仮想空間における身体所作を利用した 身体伸縮錯覚の誘発に関する研究

徳島大学・総合科学部・地域デザインコース・石原研究室 講師 石原由貴

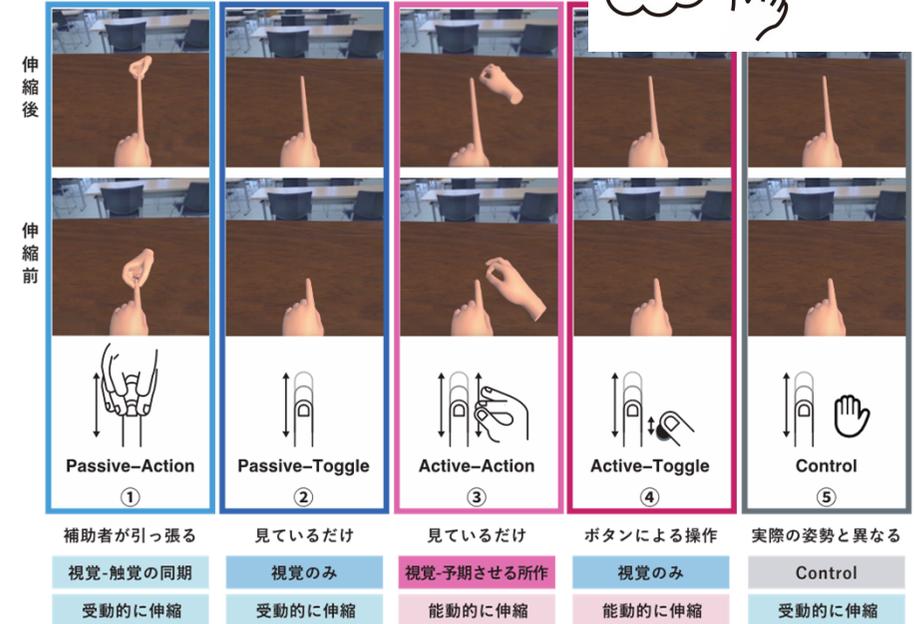


## 1 身体伸縮錯覚による 疼痛抑制に向けたアプローチ

身体部位の伸縮感を誘起することで、対象部位の慢性的な痛みが軽減される事例が報告されている。本研究にてVR上にて視覚的に指の伸縮を提示した際の誘起条件の比較実験を行ったところ、視覚刺激と共に指を直接引っ張る触覚的な刺激に次いで、伸縮を予期させるジェスチャーによる伸縮感の誘起が、ボタンをトリガーとした条件よりも強固な伸縮感を誘起することが示唆された。

## 2 パーソナライズされた伸縮錯覚の誘起に向けたアプリケーションの開発

身体イメージの変調による疼痛抑制においては、個人が持つ身体イメージに寄り添うことでより高い効果を得られる可能性がある。本研究では指の伸縮を基本動作としながら、指の伸縮速度・伸長サイズ等をカスタマイズできるアプリケーションを開発・配布し、最も効果的な身体伸縮イメージの提示下における事例収集を目指す。



“つまみ動作”を用いて

ユーザーが能動的に関節位置を動かし、伸縮できる環境



分野: 人間情報学およびその関連分野 専門: ヒューマンインタフェースおよびインタラクション関連  
(研) 社会産業理工学研究部・地域デザイン系(情報・表現)  
E-mail: ishihara.yuki@tokushima-u.ac.jp Tel. 088-656-7897

